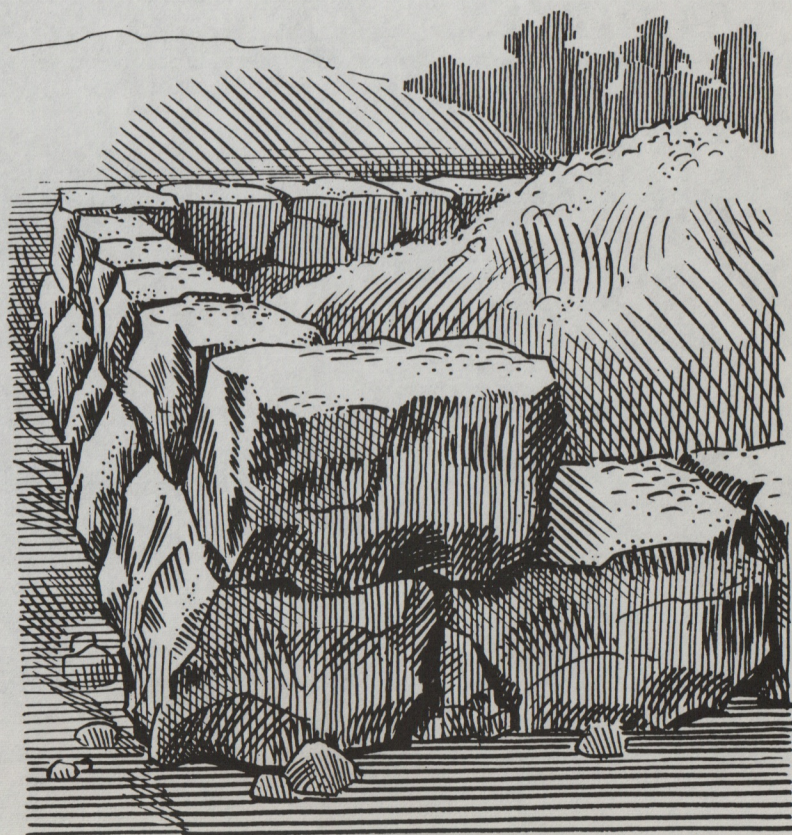


基礎の学び

L. フライシュマン / V. ボーエン 共著 島田 礼子 訳

聖書を読む会

東京都町田市玉川学園 4丁目 6番地13



基礎の学びの使い方

この“使い方”はこの学びを導く人のためのものです。

神を知らない暗黒から神と健全な関係をもつようになるまでの経験は、必ずしもだれもが同じではありません。とはいえ、神に至るために必要な基本的な事柄があることも見逃してはなりません。この“基礎の学び”では、その基本的なことを段階を追って学んでいくようになっています。

神を知らない“暗黒”は、神についての知識の不十分さと神に対する頑迷さにも理由があります。この学びは、神を知るための必要な知識を提供するとともに、各自の意志をもって神のほうに向きを変えることを勧めています。

4課の学びを終えてから神への最初の応答として、信仰の決断をすることを促すのではなく、各課の終わりにそのときの理解に応じた神への応答をするように、具体的な提案をしています。それは、各課の内容と関連しているものです。つまり、1課では、神を正しく知ることができるように、神に導きを願うことです。2課では、自分の罪と赦されなければならない事実を神に告白することです。3課では、イエスが神であり主であることを見たうえで、ご自身をさらに示して下さるように、心を開いて頼むことです。1課から3課までの背景があれば、4課で述べている十字架の意味がわかりやすくなります。ここに至るまでに主への応答を積み重ねてきた人は、

真の信仰の決断に達しやすいようです。

学びを始める前に

初めての方も楽に参加できるように

- 1 “4回の学び”に招きます。こうすると、期限の決まっていな
い聖書研究会や教会の集会よりも、楽に出席できるようです。
- 2 くつろげる場所で、たとえば個人の家などでします。
- 3 打ちとけた雰囲気になります。“集会”のようにではなく。

グループでも一対一でも

この学びは、グループでもできますし、一人のキリスト者が一人の初めての方と一対一でもできます。

- 1 グループで学ぶならば
 - a 少人数のグループ（4－8人）が理想的です。もっと大勢になると、疑問や考えていることを話し出しにくくなります。
 - b できれば、もう一人のキリスト者と一緒にするとういでしょう。そうすれば、ともに祈ることができますし、司会をすること、グループからの質問に答えること、個人的に話すことなどの責任を分け合うことができます。
 - c まだ信じていない方が出席者の過半数になるように計画して招きます。初めての方に違和感や圧迫感を与えないためです。
 - d “基礎の学び”のシリーズの途中で参加を希望する人があっても、この学びは前の課を学んでいないと次の課が理解しにくいので、次回まで待っていただいて、初めから参加してもら

のが賢明です。

e 休んだ方のためには、次の課の学びが理解できるように、抜けたところを補習しておいてあげます。

2 一対一で学ぶならば

a 一緒に学ぶ雰囲気をつくるようにして、教師対生徒ということにならないように注意します。聖書の箇所を交替で読むのも一つの方法です。グループで学ぶときにも、これと同じような注意をします。

b 質問には、なるべく初めての方先に答えてもらいます。必要があれば、自分の気付いたことを、簡単にあとから付け足してもよいでしょう。

学びを始めるために

1 この4つの課の内容をまず自分で理解しておきます。聖書を初めて開いた人の気持ちになって各課を読み、その内容を考えて準備します。

2 グループで学ぶならば、一緒に始めたキリスト者と打ち合わせ、それぞれどの課の質問を出す係（司会）を受け持つか決めておきます。

3 心の備えのできた人に会えるように、続けて祈ります。

4 心の備えのできた人を見付けるのには、次のようにします。

a 霊的なことについて考えているか、問題や必要を感じているか、心を開いているかというようなことに敏感になって、人の態度や話していることに注意します。

b 学びに招く糸口として、“聖書を読んだことがありますか”

“神は存在すると思いますか。どんな方だと思いますか” “神を知りたいと思ったことがありますか”などと尋ねます。

c 関心を起こすために、各課の表題から基礎の学びの内容を簡単に説明し、“この学びをとおして、聖書によると神はどんな方か、どうすれば神がわかるかが整理される”と告げることができます。また、“信仰を強要するのではない。ただ聖書の語っていることを調べるだけなのだ”ということ告げるのもよいでしょう。

5 参加を希望する方と相談して、4回の日時を決めます。聖書を読む時間をとるためと、学んだことを忘れないでよく消化するためには、1週間に1回のペースが適当と思われます。修養会などの場合には1日に1課か2課ずつ学ぶこともできますが、課と課の学びの間に自分で聖書を読む時間をおいたほうが、より理解が深められるようです。

学 び

この手引を綴じなかったのは

学びが進むにしたがって、学んでいる人に1課分ずつ渡すことができるように、この手引は綴じてありません。手引を見ながらのほうが学びやすい人もあれば、質問を聞いて聖書だけを見て考えるほうが学びやすい人もあります。いずれにしても、手引が手許にあれば、学びのときにノートをとる必要もなく、あとで自由に見直すことができます。しかし、手引は最初から4課分全部を渡してしまわないようにしましょう。4課は1-3課を学んでからでなければ理

解しにくいので、いきなり4課を見て、信仰を強要していると誤解されないためです。

この“使い方”の部分(i-ixページ)は、すでにお気付きのことでしょうが、新しい方に渡すためのものではありません。

質問形式なのは

基礎の学びが質問形式をとっているのは、キリスト者がだれも、教え手としてではなく、友人や家族と一対一で、あるいは、グループで一緒に学べるためです。

人は質問に刺激されて、考えたり、発見しようとしたりします。受け身の姿勢でただ聞いているのではなく、積極的に学びに参加するようになります。

基礎の学びの質問は、聖書が実際に述べていることを観察できるように作ってあります。各自の意見の発表ではなく、聖書そのものが述べていることを捜すように勧めましょう。質問が求めているのは、複雑で深い答えではなく、単純な答えだということを伝えて、発見の刺激と喜びを味わってもらいましょう。

聖書を読むことについて

聖書を持っていない人には、基礎の学びをしている間、聖書を貸してあげましょう。多くの場合に、神に対する応答は、課と課の学びの間の個人的な聖書の読み方に比例しています。各課の終わりにある聖書の箇所を読んでおくことを勧めたり、その箇所を通してどんなことに気付いたかと問いかけたりすると、聖書を読むための励ましになります。

学びの中で聖書を読むときには、1節ずつ輪読するのではなく、パラグラフか内容のまとめりに読んでもらうほうが、理解が深まります。

“聖書は靈感されて書かれた権威のある神のことばだ”という信仰が、聖書を学ぶうえでの必須条件ではありません。学んでいくうちに自然と、聖書は神のことばなのだということがわかってくる場合が多いのです。十分な知識をもつ前に聖書についての信仰を強要されると、かえって反感をもつことがあります。

ほかに注意する点

初めての方が各課の簡単に基礎的な事柄を理解できるようにします。この方々が混乱しないように、あまり複雑な説明は避けます。

学んでいるときに、どんな意見でも自由に話せるようにして、なにが話されても驚かずに受け止めます。

議論になりそうな気配が見えたなら“聖書が言っていることを見るのがこの学びの目的なので、今、ここで納得できなくても聖書の言うことをそのまま見ていきましょう”と、穏やかに勧めます。

創世記1章における科学的なことや奇蹟などを話題にして、学びが脱線しないように気を付けます。そういうときには、学びが終わってからその話をするように提案しましょう。

適切な速度で進むならば、どの課も1時間半ほどで学べるはずです。それ以上に時間をかけると、疲れて集中した学びがしにくくなります。1時間半ほどの時間がとれない場合は、各課を2回に分けることも可能ですが、1課ずつ4回で学ぶほうが全体的な理解ができます。

神へのこたえ

各課の終わりに、その課で学んだことに応じた神への応答が示してあります。これは大切なことです。神への応答を避けようとする人もあるでしょうが、このときを心から神にこたえる機会とする人もあります。このときの応答は、黙禱をしても声を出して祈ってもよいのですが、願いや告白ばかりでなく、疑問でも質問でもなんでも思っていることを正直に神に話すように勧めます。声に出して祈るならば、漠然とそんな気がするというのではなく、考えていることを言葉ではっきりと表現することになります。しかし、グループの場合には、祈りたいと思わないのに祈りを強要されたという印象を与えないために、黙禱を勧めるほうがよいでしょう。一対一のときには、声を出して祈ることを勧めてもよいでしょうが、強制的にならないように注意しましょう。最後にあなたかほかのキリスト者が祈ります。しかし、短く簡単に、普通の言葉づかいで心から神に祈りましょう。

黙禱のあとで、その人が神にしたこたえを自分から話し出さなければ、尋ねないほうがよいでしょう。しかし、学びの前やあとに、“理解できないことや納得しにくいことはありませんか”といったごく一般的な質問をすると、それまでに考えていたことを話してくれるきっかけになります。その人が神への喜ばしい応答をすることをあなたがどんなに望んでいたとしても、強制したりせかしたりすることは避けます。人を動かすのは、神のなさることです。私たちのすることは、かげでその方のために一生懸命に祈ることなのです。しかし、この学びのシリーズが終わるころには、互いに打ち

とけて話しやすくなり、どのくらいわかったか、どう思っているかなどと聞けるようになるでしょう。また、その人が主なる神を知ることがあなたがどんなに望んでいるかということも、話せるようになるでしょう。

4課の終わりに書いてあるように、信じる機会を与えます。その後、信じたことを表明する機会を与えることも大切です。まだそこまで達していない人のためには、イエス・キリストを受け入れようとするときには、自分ひとりでいつでもそれができることを話して、続けて聖書を読むように勧めます。

4課が終わったときに、はっきりとした決心のできなかった人があっても、あわてずにそのまま認めます。神は引き続いてその方のうちに働かれますし、その方も続けて考えることでしょう。信じる決意をするために神のもとに行く道について、その方はもうわかっているはずですが、強制されて気乗りのしないまま不本意にした決心よりも、自分ひとりでした決心のほうが、純粹で確かなものです。神のもとに行く行き方は、行く人の数ほどもあるのに気付かれることとでしょう。

基礎の学びのあとで

基礎の学びをした方の多くは、聖書に関心をもって、さらに学ぶことを希望するようになります。そういう方には、聖書を読む会の“マルコ”の手引を紹介することもできます。グループで聖書の学びを始めるのには、“聖書を読む会の始め方”と“マルコ”の手引の序文がよい参考になります。

聖書によると神はどんな存在か

“神”ということばを見たり聞いたりすると、どんなことを考えるでしょう。初めにここで少し時間をとって、話し合ひましょう。

世の中には、神に関するいろいろな考え方がありまますし、さまざまな宗教もあります。そのどれが正しいのでしょうか。信じられさえすれば、どれでもかまわないのでしょうか。真の生きた神は存在しないのでしょうか。

私たちは神を見ることができませんし、神の声を聞くことも、神にさわることもできません。ですから、神のほうからご自分を示して下さらないかぎり、神を正しく知ることができないのです。今までに神は、ご自分を現したことがあるのでしょうか。この4回の学びの目的は、神について、神と私たちとのかかわりについて調べることです。この学びは、信仰を強要するものではなく、聖書の語っていることをそのまま見て考察するものです。

聖書は神がどのような存在だと言っているのでしょうか。まずそれを見ていくことにしましょう。

I 創世記 1章1節－2章3節 はじめに

聖書の最初の部分を読みながら、神はどんな方か見ましよう。

- 1 a このところから神についてどんな印象を受けましたか。
b 1－5節では、神の行為を表現するのに、どんな動詞が使っていますか。 c これらの動詞から見ると、神についてどんなことがわかりますか。 このようなことができるのは、どんな神なのでしょう。 d “祝福”し(22,28節)、“与えた”(29,30節)という表現から、この神についてどんなことがわかりますか。 e そのほかにも神について、この章で気づいたことがあれば、あげましよう。
- 2 人間も話したり、物を作ったり、名前を付けたりすることができます。しかし、どんな点で、神は人間よりもすぐれているのでしょうか。
- 3 聖書によると、神はどんな方法で創造をしましたか(3,6,9,14-15節など)。
- 4 a ひとつひとつの創造を終えるたびに、神はどのように評価しましたか(4,10,12,18節など)。 b 私たちは自分の作ったものについてどう思いますか。いつも満足できますか。
- 5 創造した順序から、神についてどんなことがわかりますか。神が最初に人間を創造したら、どんなことになったでしょう。
- 6 a 1節によると、神はいつ天と地を創造しましたか。
b “初めに”ということばから、神と神の存在について、どんなことがわかりますか。
- 7 神はどのくらいの期間をかけて、すべてのものを創造しましたか。

“日”というヘブル語は、24時間の一日と、一区切りの期間のどちらの意味にも使われます。期間を意味しているなら、それぞれ

の“日”の長さが異なっている可能性もあり、ごく短い時間の一日も、また非常に長い期間の一日もあったことが考えられます。聖書は神が万物を創造したと述べてはいますが、科学的な説明をしようとはしていません。

8 a 神の創造のクライマックスは、なんだと思いますか。

b 人間の創造は、ほかのすべての創造の場合と、どんな点が違っていませんか。

9 聖書の神についてこれまでにわかったことに合わせて、“われわれのかたちに、人を造ろう”という神のことばから考えると、人間にはどんな特質があるはずだと思いますか。どのような点で人間は神に似ているのでしょうか。

ここで“かたち”とありますが、“神は霊である”(ヨハネ 4章24節)と聖書に書いてあるように、神には肉体がありません。人間には肉体があるので、この点でも神と人間は違っています。神のかたちに造られることは、人格が与えられることも含んでいます。人格のもつ大事な特徴の一つは、自由意志があることです。

10 この章を読んで“神は人間に似ている。人間のようだ”と思う人もあるでしょう。しかし、神が人間に似ているのではなく、人間が神に似ているとするならば、神についての理解はどのように変わってきますか。

神が人間のようだと思えるならば、神は人間と同じ制約を受けることになり、神が宇宙を創造したことが信じられなくなります。しかし、人間が創造者である神に似せて造られた存在にすぎないと考えるなら、神はいかに偉大な存在かということがわかるようになって、聖書が理解しやすくなるでしょう。

11 最初に話し合った“神々”と、聖書の神がどう違うか考えてみましょう。 a 自然や太陽や月などを、神だと考える人もありますが、それらは聖書の神とどう違いますか。 b 八百万(やおよろず)の神々がいると考える人もいます。それと、創世記1章の神は、どう違いますか。 c また、“神はご利益の神なので、必要なときには助けてもらって、普段は忘れていてもよい”という考え方もあります。これと、聖書の神を比べると、どんな違いがありますか。 d “神とは、あると思えばあるし、ないと思えばないのだ”と言って、神の存在は自分の考えしだいなのだと思っている人も少なくありません。このような考えと、聖書の神を比べてみましょう。 e 今、見てきたことのほかにも、神について聖書と違う考え方がありますか。

12 創世記1章は、神が人間と宇宙のすべてを創造した生きている方だということを示しています。神がこのような存在なら、人間はこの方の前でどんな立場にあると言えますか。人間は神に対して、どんな態度をとればよいでしょうか。

これまでに見てきたように、聖書の神は造られたものではなくすべてを造った方です。神は人格的な生きた存在であって、いのちの源です。この創造者は、今、現実に私たちとかかわりがあるでしょうか。聖書にはどう書いてあるか調べてみましょう。

II 詩篇 139 篇 神 と 私

多くの宗教は、人間が“神”または“なにものか”を捜しているとします。しかし、聖書によると、神のほう人間を求めている

ことになります。詩篇 139篇はそのことを明らかにしています。

詩篇 139 篇 1-6 節

神はここで主と呼ばれ、また“あなた”と呼びかけられています。この箇所を読んでもらいながら、主が“私”のなにを知っているか、注意しましょう。

- 1 a 神は“私”のどのようなことを知っていますか。 b 主の知っていることは私たちのどれくらいにまで及んでいますか。
- 2 a 神はこの人に、どのような接触をしていますか(5節)。
b だれかが、突然あなたの肩に手をかけたとしたら、どんな気がしますか。

詩篇 139 篇 7-12節

ここを読んでもらいながら、神が自分のことを完全に知っていて、さらにその手を自分の上に置いていることに対して、この人はどんな反応をしたか、見ていきましょう。

- 3 a 自分をそんなによく知っている神に対して、この人はどんな反応をしましたか。 b 神からのがれるために、どんな可能性を考えてみましたか。 c なぜ、どこへ行っても神からのがれないのですか。 d このことから、神についてさらにどんなことがわかりますか。 e 現代の私たちは、どんな方法で神からのがれようとしていますか。
- 4 a 1-12節までで、神の態度をどのように感じましたか。
b 神はその手でどんなことをしようとしていますか(5,10節)。
c この人が示したような態度をとる人は、なぜ神の導きを受け

にくいのでしょうか。

詩篇 139 篇 23, 24節

- 5 a 23, 24節から、この人の態度に、どんな変化が見られますか。 b ここで、この人は神にどんなことを求めていますか。 c これは、7-12節のときにこの人が考えていたことと、どう違いますか。 d なにがこの人に、このような内面の変化を起こさせたと思いますか。 e すでに神に知り尽くされているのに、なぜこの人は、もっと知って下さい、もっと探して下さいと頼んでいるのでしょうか。

私たちはこの人のように、神に導きを頼めますし、前にこの人がしたように神からのがれようとすることもできます。23, 24節でこの人がしているように、あなたも神に導きを願うでしょうか。

しばらく静まって自分の思っていることを神に話しましょう。

ま と め

聖書によると神は、唯一で、全知、全能、遍在の(どこにも存在する)方であって、創造者です。しかもこの偉大な方は私たちひとりひとりの人間を心にかけて、導こうとしています。しかし、この神が実際に存在するなら、世界はなぜ、今のよう状態になったのでしょうか。次回には、この問題を取り上げます。それまでに、創世記の2章と3章、ローマ人への手紙1章18-32節を読んでおいて下さい。神についてもっと知りたい方は、詩篇 103篇とイザヤ書40章を読むとよいでしょう。

神が存在するなら なぜ世界はこのような状態なのか

初めに、聖書の神について1課で学んだことを、簡単に復習しましょう。

創世記1章31節には、神が創造したものはみな“非常に良かった”とありますが、今日の世界の状態は、はたしてそう言えるでしょうか。“よい”世界になにが起こったのでしょうか。神がすべてを知っていて、この世界を心にかけているなら、戦争や犯罪のような悪が世の中にはびこることを、なぜ止めようとしないのでしょう。神は自分の創造したものを制御する力をなくしたのでしょうか。今回は聖書がこの問題をどう説明しているか、調べましょう。

I 創世記 2章 よい世界

この章には、“非常によい”世界のことが書いてあります。2章4-25節を読みながら、どんなよい点があるか見ましょう。

- 1 a 8-15節から、どんな情景が想像できますか。 b どうして、エデンの園は、住みよい場所になっているのですか。
- 2 a ここから二人の人について、また、ここでの暮らし方について、どんなことに気が付きましたか。人間にはどんな責任があり

ますか。1章26, 28節も参照。 b エデンの園での暮らしは、退屈だったでしょうか。なぜですか。 c 20-25節から見ると、この二人の間はどのような関係だったと言えますか。

- 3 a 現在の世の中には、人類を造った神とはなんの係わりもないように生活している人が少なくありません。神が存在することさえ認めない人も多いのです。この箇所から、神が創造した人間と神との間にどんな関係が見いだせますか。 b 人はどのようにして、この美しい所にはいりましたか。どのようにして、満足のいく仕事を見つけましたか。どのようにして、最もふさわしい妻に出会いましたか(15, 19, 20-22節)。 c 神はアダムを園に置き、動物を彼のところに連れて来ました。このように神は、主権をもっている方なのに、アダムにどんなことをまかせましたか(19節, 1章26, 28節)。

この出来事に見られるように、神はご自分の創造したものに働きかけ、配慮をしていました。しかし、それは、“運命”のようなものではありません。神は人間をご自分に似せて、理性も意志もある者として造り、人間がそれを自由に使うことを望んでいました。人間は神から“支配”し“従える”責任を与えられたのです。アダムが動物に名前を付けるときにどんな名前を選ぶかと、神は関心をもって見ていたようです(19節)。

- 4 a 2章では神の名が違っていることに、注意しましょう。2章4節からは、神はどんな名で呼ばれていますか。 b なぜ神は、この時点から別の名でも呼ばれるようになったのでしょうか。なぜここで、人間にだけ神が主であることを意識させることが必要だったのでしょうか。 c 15-17節のどんなことから、神が

主であることがわかりますか。

- 5 a 16, 17節にある神の命令は、どんなことを許可していますか。どんなことを禁止していますか。 b この命令に従わないと、どんな結果になりますか。 c 禁止された木の実を食べるなら、いつ死にますか。 d 二人の暮らしていた場所と状況、彼らの互いの関係と主との関係を考えると、この命令に従うことは、簡単だったでしょうか、困難だったでしょうか。なぜ、そう思うのですか。

私たちは命令されると反抗的になりやすいときもありますが、すべてが完全に整えられていたエデンでは、この命令に従うのは困難ではなかったでしょう。

II 創世記 3章 問題の始まり

創世記 3章1-6節

2章で見た命令を思い出しながら、この箇所を読みましょう。

- 1 a ここに出てきた蛇について、どんなことがわかりますか。 b この蛇がなにもものであったか、ヨハネの黙示録12章9節から見ましょう。
- 2 この二人は理想的な環境に置かれていて、なんの不足もありませんでした。しかし彼らは、神の命令にそむいて、その禁じられた木の実を食べてしまいました。どうしてそんなことをしたのでしょうか。二人の弱いところは、なんだったのでしょうか。聖書から調べてみることにしましょう。 a サタンは誘惑を始めたときに、神の話したことを正確に引用しましたか。3章1節と2章

16, 17節を比べましょう。 b サタンがゆがめて引用したことばは、神についてどんな印象を与えますか。 c 2, 3節で女が答えていることと、神が実際に話したことを比べると、どんな点に気が付きますか。 d “必ず死ぬ”と言うことと、“死ぬといけない”と言うのとでは、どのように意味が違いますか。

- 3 a サタンは最初、神のことばをわざとゆがめて使いました。次にサタンは、神の話したことをどのように変えて、断言していますか。 b サタンは、神が善悪の知識の木の実を食べてはならないと命令したのは、どんな動機からだと言っていますか。 c 禁止された木の実を食べてしまったことから、神と神のことばに対して、女がどのような態度をとったことがわかりますか。 d 夫が木の実を食べたことから、神と神のことばに対して、彼がどのような態度をとったことがわかりますか。

主である神の命令に従わなかったことは、この二人が神を絶対的な主としていなかったことを表しています。それで彼らは、神のことばの代わりに蛇(サタン)のことばを信じたのです。この2つのことの結果は、その実を食べるという不従順な行為として現れました。

創世記 3章7-24節

ここを読んでもらいながら、この二人が神に従わなかったためにどんなことになったか、注意しましょう。

- 4 a アダムとエバが木の実を食べたのち、まず初めにどんなことが起こりましたか。 b “ふたりの目は開かれ”とは、どんなことを意味していると思いますか。すでに2章25節のときから

二人は自分たちが裸であることを知っていました。ここで、なにが変わったのでしょうか。

- 5 この二人と神との関係に、なにが起きましたか(8-10節)。
- 6 a 起きてしまったことを、アダムはだれのせいにしていますか。エバのほかにだれに責任があると言っていますか。 b エバはだれのせいにしていますか。 c 二人がこのような判断をしているのは、彼らの判断力に、どんなことが起きたことを示しているのでしょうか。11-13節参照。
- 7 12節でアダムが話したことは、彼とエバの関係にどんな影響を及ぼしたと思いますか。
- 8 a 14-19節で、神はだれをさばきましたか。なにを呪いましたか。 b それぞれがどんなさばきや呪いを受けましたか。
- 9 23, 24節では、最終的にどんなさばきが下されましたか。
- 10 a 二人が神のことばに従わなかったために、確かに取り返しのつかない事態が起きました。しかし、神は“食べるその時、あなたは必ず死ぬ”と言っていました。果たしてそのとおりに彼らはすぐに死にましたか。 b では神は、どんな意味で“そのとき必ず死ぬ”と言ったのだと思いますか。

私たちの経験では、死とは、互いが別れ別れになり、“分離”された状態になることです。肉体をもっている私たち人間について言えば、人間を物質の世界から完全に引き離すのが死です。しかし聖書に“神は霊です”(ヨハネ4章24節)とあるように、神には肉体がありませんが、神に似た者として創造された私たち人間には、肉体も霊もあります。神が人間に対して、不従順の結果は死なのだと言ったとき、それは、人間が神から完全に“分離”させられて、

神との関係を断たれた状態になること、つまり霊的な死も意味していました。まさにそのことがここで起こったのです。人間は神に対して死んだ者となりました。その後起こる肉体の死(19節)は、不従順の結果として生じた死のほんの一部分にすぎないのです。

- 11 a 神にそむいたのちにアダムは、神とエバのせいであのようなことをしたと言いました。エバは蛇のせいだと言いました。あなたはだれのせいだと思いますか。なぜ、そう思うのですか。 b 現在の私たちも自分のしたことを、他人や環境のせいにして彼らのような言いのがれをすることがあるのでしょうか。

Ⅲ ローマ人への手紙 1章18-32節 問題の広がり

ローマ人への手紙 1章29-32節

この箇所を読んで、紀元1世紀になったとき、世界がどのようになっていたか見てみましょう。

- 1 現代の私たちは、あの時代よりも進歩した文明社会に生活していると思っていますが、ここにあげてある罪の中で、もう私たちが犯さなくなったものがありますか。

ローマ人への手紙 1章18-28節

ここでは、世の中がなぜこのような状態になったかを説明しています。神が人類を怒っている理由を捜しながら読みましょう。

- 2 a 19節によると、すべての人にどんなことが明らかにされていますか。 b 20節からは、神についてどんなことがわかりますか。 c 神についてのこのようなことは、なにによって知ら

されますか。

3 a 21節によると、この事実を見ながらも人はどんな態度をとっているのですか。 b これと、創世記3章に見られるアダムとエバの態度を比べると、どんな点が共通していますか。

4 a 21, 22節では、人の思いが空しくなり、心は暗くなり、愚かな者になったとあります。その結果として人はどんな愚かな行為をするようになりましたか(23, 25, 28節)。 b 現代の社会では、23節に書いてあることが、どのように行われていますか。25節に書いてあることは、どうでしょうか。 c 28節前半の“神を知ろうとしたがらない”ということは、現代の世の中で見られるどんなことと似ていますか。

5 a 人が神に向かってしてきたことを説明したすぐあとに“それゆえ”(24節)、“こういうわけで”(26節)、“……ので”(28節)ということばがあります。それに続けて、人が神を拒絶したために神がしたことを語るのに、どの場合にもどんな同じ動詞が使っていますか。 b 神は人間をなにも、“引き渡され(まかせられ)”たのですか。 c “彼らを……引き渡した”と言うのではなく、“彼らに……させた”とあるとしたら、その意味はどのように違ってくるでしょう。“引き渡されました”と書いてあることから、ここにあげてあるすべての罪の責任は、だれにあることがわかりますか。

それは、まるで神がブレーキから足を離して、人間のするままにまかせたかのようです。29-32節にあげてあることは、すべて、“暗くなった心”(21節)と“良くない思い”(28節)の当然の結果なのです。

6 a “もし神がいるなら、戦争や飢饉などをどうして止めないのだろう”と言って、世の中の状態を神のせいにするのがよくあります。しかし、この世の中が今のような状態になったのは、結局、だれが悪かったからなのですか。サタンのせいですか。神のせいですか。人間のせいですか。だれに責任があるのですか。 b あなたにも、アダムやエバに似ているところがあるでしょうか。

アダムとエバの墮落は、神を主と認めないことから始まりました。その結果として、彼らは神のことばを信じないようになりました。聖書は全巻を通して、神を主とせず、神のことばを信じないことを罪と言っています。これは、今日でもなお、人類の根本的な罪であって、他のあらゆる罪はここから起きてくるのです。

ま と め

神は人間をご自分に似せて創造しました。それで私たち人間には、自由意志があります。つまり私たちは、物事を選んだり行動を決めたりする能力と自由をもっているのです。しかし、自由意志には責任も伴います。自分で選んだならば、その結果も自分が負わなければなりません。(たとえば、毒を飲む自由はありますが、飲んだのちに起こる結果を、自分で決めることはできません。)人は神を認めないことも神に従わないことも、自由に決められます。しかしその選択に伴う結果からのがれることはできません。いのちの源である神とのきずなを、自分から断ち切ってしまうならば、その結果は、当然、死であり、さらに死に至るまでのさまざまな過程もこ

れに含まれているのです。世界がこのような状態にあるのは、神に反抗することを選んだ人類が、自ら選択したことの結果を体験しているのです。

ここでもう一度、創世記3章を見ましょう。アダムとエバがあのようなことをしてしまったにもかかわらず、神は彼らを深く心にかけておられるようです。次のことから、特に神の愛が見いだされます。

1 3章8-10節 ここで神は、詩篇 139篇でも見られたようなどんなことをしましたか。

2 21節 a アダムとエバはすでにいちぢくの葉をつづり合わせて腰のおおいをしていたのに、なぜ神は、ここで彼らに皮の衣を作って着せたのだと思いますか。 b 神はこの皮をどのようにして手に入れたでしょうか。 c 皮をはがれた動物は、どうなりましたか。 d 罪を犯すならばどういうことになると、神は言っていましたか(2章17節)。

これは、最初の身代わりの犠牲でした。罪のないものが代わりとなって死ぬことによって、彼らの罪の結果の“おおい”となりました。これが、罪の結果に対する神の解決であって、人間が考え出した解決ではないことに注意しましょう。

3 15節 a この節は神が人間を救うために与えて下さる救い主についての最初の預言ですが、やがて“女の子孫”とサタンとが争うことを告げています。この預言によると、どちらが最終的に勝利をおさめるのですか。 b 神がこのことを蛇に話すのを聞いていたアダムとエバは、どんなことを感じただろうと思いますか。

黙禱をして終わりましょう。そのときに、もし根本的な罪について、つまり神を主としなかったこと、神を信じなかったこと、神に従わなかったことなどについて、神にあやまりたければ、神に話しましょう。

この次までに、神が与えると約束した“女の子孫”を捜しながら、ルカの福音書を読んでおくことをお勧めします。

神はどのようにしてこの問題を解決したか

これまでに聖書の中から、創造者である神が人間を造り、交わるのを望んでいることを見てきました。しかし、人間は自分の意志によって、神を拒絶し、神に従わない道を選びました。それによって、いのちの源である神と人間との関係が断ち切られたのです。そのため、人間の身に死が及んだことの責任は、人間にあるのです。けれども神は、女の子孫を通してそれをご自分が解決すると約束して下さいました。

神はご自分が創造した人間がそむいて、神との間に断絶を引き起こし、全人類を死に至らせたとき、どれほど心を痛めたことでしょう。人間に対する愛のゆえに神は、ご自分から働きかけてその心を伝え、救い出す道と和解への道を備えようとすることでしょう。今回から、この問題に対して神の備えた解決と、どのようにして神がご自分の意志を私たちに伝えたかを学んでいきましょう。

I “ことば” イエス・キリスト

1 まず“ことば”について考えましょう。普通ことばとはなにを意味していますか。ことばにはどんな目的や機能がありますか。

ことばについて考えたことを心に留めながら、次の箇所を見て

いきましょう。

ヨハネの福音書 1章1-4, 10-11節

2 1-4節では、“ことば”について、どんな事実を告げていますか。

3 10-11節によると、この方が世に来たときに、人々はどんな反応をしましたか。

ヨハネの福音書 1章14-18節

4 14節前半によると、この“ことば”はどんなかたちをとって、世に来ましたか。

5 a 人となったイエス・キリストは、だれを現しましたか(18節)。 b それと、イエスが“ことば”と呼ばれていることは、どんな関係があるでしょうか。

ヨハネの福音書は、イエス・キリストのことを書くための序文として、“ことば”についてこのように説明しています。イエスを“ことば”と呼び、イエス・キリストが創造者である神であり、人間となって神を“説き明かされた”(伝達された)と言っています。イエスを“キリスト”(メシヤという意味)と呼ぶことは、この方が創世記3章15節で約束されている“女の子孫”であって、サタンを征服し、罪とその結果の問題を解決する方であることを意味しています。

これは、実に驚くべき主張です。イエスは今からおよそ2千年ほど前に生まれ、約33年の間地上で生活し、ローマ帝国の手によって十字架による死刑に処せられました。このことは、歴史に記録さ

れています。ところで、イエスが人間を越えた存在であるという証拠は、本当にあるのでしょうか。今回は、イエスがどんな方であったか、ご自分についてどんなことを言っていたか、それをどのように裏付けたか、聖書から調べましょう。なぜヨハネは、イエスが創造者である神でありながら、神をあらわすために人間になったという結論に達したのか、見ていきましょう。

Ⅱ イエスが自分について言っていること

ヨハネの福音書 8章56-59節

アブラハムが、イエスの時代よりも約2千年の昔に生存した人であることを心に留めながら、この箇所を読みましょう。

- 1 a イエスは58節で、アブラハムと自分とはどちらが先にいたと言っていますか。 b そうするとイエスは、自分についてどんなことを主張したことになりますか。
- 2 イエスのこの主張に対して、ユダヤ人はどんな反応をしましたか。

神は旧約聖書で“わたしはある”と名乗っています。これは神の名前の一つです。58節でイエスは、自分について神のその名前を使って“わたしはいる”と言っています。ユダヤ人はそれを神への冒瀆とみて、激しく怒り、石を拾ったのです。旧約聖書では、神を冒瀆した者を石打ちによる死刑に処するように命じていました。

ヨハネの福音書 10章30-38節

- 3 ここでもユダヤ人は、イエスがどんなことを主張したと理解し

ていますか。

- 4 イエスは自分のした“わざ”(奇蹟)は、自分についてどんなことを明らかにしていると言っていますか(37,38節)。

ヨハネの福音書 14章6-11節

イエスがここで話している相手は、イエスに敵対している人たちではありません。イエスを理解しよう、信じようとしている弟子たちなのです。

- 5 イエスは6節で自分について、どんなことを言っていますか。
- 6 6-11節でイエスは、自分と父(父なる神)とは、どんな関係にあると言っていますか。

これらの箇所にあるイエスのことばは、イエスが自分こそ創世記1章の神なのだと言っていることを意味しています。イエスのほかにだれがこのような主張をしたでしょうか。モハメットも釈迦もほかのだれも、こういう主張をしていません。イエス・キリストは明らかに自分は神であると主張しています。

Ⅲ イエスは自分の主張をどのように裏付けたか

ペテロの手紙第一 2章22節

- 1 ペテロは弟子の一人として、3年の間イエスと行動を共にしていたので、イエスのことをよく知っていました。このイエスについて、ペテロはどんなことを言っていますか。
- 2 このようなことは、どうして普通に言えることではないのでしょうか。

マルコの福音書 1章30-34, 40-42節

3 イエスはここで、どんな種類の奇蹟を行いましたか。

これは、四福音書が述べている、イエスが病氣と悪霊に対して力を現したことの一例です。

マルコの福音書 4章35-41節

4 a 弟子たちが一番恐れたのは、いつですか。彼らが“大きな恐怖に包まれた”(41節)とき、周囲はどんな状況でしたか。

b 彼らが急にイエスを恐れるようになったのは、なぜだと思いますか。

5 a イエスはどんな方法で、嵐を静めましたか。 b 神は宇宙を創造したとき、どんな方法をとりましたか。創世記1章3, 6, 9節など参照。

神は何もないところから、ことばを語ることによって宇宙を創造したのですから、自らその神だと主張するイエスが、ことばを使うことによって自然界に影響を与え、これを支配したとしても、驚くほどのことではありません。イエスの奇蹟の多くは、このようにことばによって行われました。

ヨハネの福音書 11章17-27, 38-48, 53節

6 25節でイエスはご自分についてどんなことを言いましたか。

7 この出来事によって25節のイエスのことばは、どのように実証されましたか。

8 a イエスはどんな方法で、死んだラザロに再び生命を与えましたか。 b イエスは祈りの中で、この奇蹟によって、そこに

いる人々に、どんなことが明らかにされると言っていますか。

イエスが奇蹟を行っていることを、ユダヤの指導者は否定できませんでした(47節)。この事実こそイエスが本当に奇蹟を行ったことを示すものです。しかしながら、指導者たちはこれらの奇蹟が意味することに、正面から取り組もうとはしないで、かえってイエスを殺そうと決めたのです。指導者たちは証拠を見せられても絶対に信じまいとしていました。それに反して弟子たちは、“いったいこの方はどういう方なのだろう”と、受け入れようとする態度で、イエスのことばに耳を傾けています。私たち自身はどちらの態度をとっているでしょうか。

マルコの福音書 8章31節, 9章31節, 10章33-34節

9 イエスは自分のうえに、どんなことが起きると予告していますか。どんな死に方をすると断言していますか。そののちに、どんなことが起きると断言していますか。

10 これらの予告、特に復活に関する予告が実現しなかったとしたら、これまでにイエスが話してきたすべてのことの真実性は、どうなりますか。

IV イエス・キリストの復活

自分に対する反感と憎しみが高まる中で、いずれ殺されるとイエスが予測するには超自然の力を必要とはしませんでした。しかし、復活についてはどうだったでしょうか。これは、イエスが普通の人間であったなら到底考えられないことです。イエスが自分の復

活を予告することも実行することもできるのであれば、自分が神であると話したことも、そのほかのどんなことばも軽々しく無視することはできません。事実キリスト教の真实性そのものが、イエスが死から復活したか、否かにかかっているのです。ここで、イエスの復活の事実について、いくつか証拠をあげて調べていきましょう。

マタイの福音書 27章57-66節

ここを読んで、イエスの遺体がどのようにして埋葬されたか、見てみましょう。

- 1 人々はイエスの遺体に、どんなことをしましたか (58-60節)。
- 2 祭司やパリサイ人は、なにが起きることを恐れていましたか。
- 3 彼らは弟子たちに遺体を盗まれないように、どんなことをしましたか。

封印にはローマ帝国の権威がかかっているのです、これを破れば死刑にされます。番兵も使命を果たさなければ、死刑に処せられるでしょう。

マタイの福音書 28章1-15節

この箇所を読みながら、それぞれの人がイエスの遺体に起きたことを、どのように言っているか、どのように考えているか、見ていきましょう。

- 4 ここにいる人の中のだれが、イエスの遺体がもう墓の中になことを認めましたか。
- 5 イエスのからだは墓の中になという点では、御使いも女たちも番兵やユダヤの指導者たちも、みんな同じ考えでしたが、彼ら

がしている説明には、どんな違いがありましたか。

- 6 あなたがそこにいたとしたら、番兵のことばが信じられたでしょう。 (眠っている間に、あなたはどれくらいのことが見えますか。)

マルコの福音書 16章9-14節

イエスが復活したという知らせを受けた弟子たちの反応に注意しながら、この箇所を読みましょう。

- 7 a イエスがやがて訪れる自分の死と復活について、何度も告げていたのに、弟子たちはイエスの復活が実現することを予期していなかったようです。11人の弟子に現れる以前にイエスが死から復活したことを、だれが彼らに知らせましたか。 b その人たちはどのようにして、それがわかったのですか。
- 8 弟子たちはこの知らせに、どんな反応をしましたか。
- 9 イエスが自分たちの前に現れるまで、弟子たちはなぜイエスの復活を信じなかったと思いますか。

弟子たちがイエスの復活を期待していなかったのは明らかです。わずかのきっかけでもあれば信じようとしていたのでもないようです。彼らはそのような話を作り上げそうな気配さえも示していません。ですから、あれほど疑い深かった人たちが、のちにイエスの復活を確信することになったとすれば、絶対に反駁できない証拠を見たに違いありません。

ヨハネの福音書 20章1-10節

この出来事を読みながら、マリヤと二人の弟子が感じたことや

考えたと思われることを、想像してみましょう。“もうひとりの弟子”というのは、ヨハネ自身のことを指しています。

10 a ペテロとヨハネは墓の中でなにを見つけましたか。

b 遺体がなくて亜麻布だけが残っていたという事実から、どのような可能性が考えられますか。

11 ヨハネはこれを“見て信じた”とあります(8節)。なにを信じたのだと思いますか。(9節は、弟子たちが空の墓を見るときまで、イエスの復活を信じなかった理由を説明しています。)

ヨハネの福音書 20章19, 20節

12 なぜイエスは自分の手とわき腹を、弟子たちに示したのでしょうか。それは、なにを証明していますか。

ヨハネの福音書 20章24-31節

13 トマスは自分が信じるための条件として、どんなことをあげましたか。

14 このときイエスは、現れるとすぐにトマスに話しかけて、彼が言っていた条件に触れました。トマスがそのことを話したとき、イエスは居合わせなかったのに、どうして彼の条件がわかったのでしょうか。詩篇 139篇1-6節を思い出しましょう。

15 トマスはなにを信じましたか(28節)。

16 イエスは“見ずに信じる者は幸いです”と言いました。なぜヨハネは、このことを特に記録したのでしょうか。8節参照。

17 30, 31節によると、ヨハネはどんな目的でこの福音書を書いたのですか。

ま と め

多くの人は、奇蹟、特にイエスの復活が実際に起きたことが信じられないと言います。しかし、問題は、“奇蹟がありうるか、どうか”ということではなくて、“イエス・キリストはだれなのか”ということなのです。万物を創造した神であるのならイエスは、超自然的なことを行う力をもっているわけですし、自分の主張を裏付けるためにも、超自然的なことを行っただけです。

復活したこのイエス・キリストは、生きている神であって、人間を創造した方であり、私たちの上に手を置いて導くことを望んでいる方であると聖書は告げています。このことを別の表現で述べているヨハネの黙示録3章20節を読んでみましょう。イエスを知りたいと思うなら、ここで勧めているように自分の心の戸を開き、祈って、イエスにそのことを話しましょう。なにかわからないことや疑問があれば、それも正直に告げてよいのです。

今回は最終回になります。四つの福音書には、十字架刑の記録がありますが、次回までにその記事を1つの福音書からでも読んでおきましょう。

なぜイエスは死なねばならなかったのか

(この課では、紙か黒板を用意して、学びの進行に伴って図を描いていくと、理解がしやすくなります。)

神を知り、神と交わることができるように、神はご自分に似たものとして人間を造りました。しかし、下の図が示すように人間は自ら選んで罪を犯し、その結果として神から離されてしまったのです。

それなのに、神はご自分から人間との関係を回復しようとして“女の子”を通して、究極的な解決することを約束しました。前回に、イエス・キリストがその約束のメシヤであって、神であると同時に人でもあると主張したことを見ました。その主張を確認する多くの奇蹟を行ったこと、さらに、自分で繰り返して予告していたとおり、十字架の死ののちに、からだをもって復活したことも学びました。

神でありながら人でもある方が死に勝利できたのは当然です。しかし、なぜこのイエスは死ななければならなかったのでしょうか。なぜ自分が殺されることを許可したのでしょうか。

初めにローマ人への手紙6章23節を読んで、対照的なことばに注意しましょう(報酬と賜物、死といのち)。ここでこの節を暗記

しましょう。

I 十字架 預言と成就

創世記3章15節を初めとして、旧約聖書には“メシヤ”に関する多くの預言があります。このメシヤは、人間が神を拒絶したことによって起きた問題を解決するために、いつの日か来られるはずの方でした。まず旧約聖書の預言の中の2箇所を見て、次にこれとイエスの上に起きたこととを照らし合わせてみましょう。

A 旧約聖書の預言

ダニエル書 7章13, 14節

- 1 ダニエルは紀元前 600年ごろの人です。メシヤについて“人の子のような方”の幻が彼に与えられました。“人の子”についてどんなことが明らかにされていますか。この方にはなにが与えられ、その治世はどのくらい続きますか。
- 2 a イエスは、たびたびご自分を人の子と呼びましたが、マルコの福音書10章45節では、ご自分が来た目的をどのように言っていますか。 b これとダニエルが人の子について書いていることとは、どんな点が違いますか。二つの違う点をあげましょう。

イザヤ書 52章13節-53章3節

- 3 a イエスが人となって来たときよりも約 700年前に、メシヤについてイザヤが書いたこの預言からは、ダニエル書とは違った

印象を受けます。52章13節でメシヤはなんと呼ばれていますか。

b 53章2, 3節によると、メシヤはどんな方ですか。そして、どのような扱いを受けますか。

ダニエルとイザヤの預言は、一見矛盾しているように思われますが、実は王としても、しもべとしても、ともにメシヤの使命を示しているのです。これらは、現在まだ成就していないことも含めて歴史の中での異なった時期のメシヤの働きを伝えているのです。

イザヤの預言とイエスがマルコの福音書10章45節で話していたことが、歴史の上でどのように成就したか見ていきましょう。

B 十字架の事実

マルコの福音書 14章50節-15章39節

“さげすまれ、のけ者にされ（捨てられ）” たというイザヤの預言がイエスの上にどのように成就したか見ながら読みましょう。

4 イエスはだれから、また、どのように、さげすまれましたか。次のそれぞれの所から見てみましょう。14章55-65節、15章16-20節、29-30節、31-32節。

5 イエスはどのようにして、だれに、捨てられましたか。次の所を見ましょう。14章50, 64, 72節、15章12-15, 33-34節。

C 十字架の理由

イエスは贖いのために自分のいのちを与えると言いました。マルコはイエスの死の様子を記録するのに事実だけを述べて、そのことの起きた理由を述べてはいません。イザヤの預言はイエスの死が

どんな理由で、どのようにして贖いとなるかを説明しています。

イザヤ書 53章4-12節

この部分を読んで、メシヤが苦しめられ、死ななければならなかった理由を見ましょう。

6 a 4-6節は、メシヤの受難について、どんな理由をあげていますか。 b メシヤはだれのそむきと咎（とが）のために、苦しみを受けたか。

7 メシヤがこらしめられたことによって、私たちにはなにが与えられましたか（5節）。

8 これらのことは、だれの計画でなされたのですか（6, 10節）。

II 十字架の意義

ここでもう一度、ローマ人への手紙6章23節の意味を考えながら、暗誦しましょう。

これまでに、神に対して犯した罪の結果は、当然死であるということ、聖書から学んできました。今度は、神がどのようにしてイエス・キリストを通して、賜物としてのいのちを与えて下さるか調べていきましょう。

この課の初めに見た図をもう一度確かめましょう。

神 — 創造主である神は、罪の問題の解決を約束しました。

人 — 人は神に似た者として造られましたが、神と神のことばを拒絶する罪を犯して、霊的な死と肉体的な死とを経験することになりました。

罪 — 罪は人を神から断ち切り、神と人との間の越えることのできない障壁となりました。私たちが神を“感じる”ことができず、神を知らないのはそのためです。このことを説明しているイザヤ書59章1, 2節を読みましょう。

A 神の特質

これまでに見てきたものの他にも神にはいろいろの特質があります。特に、そのうちの3つの特質を考えることによって、イエスの死の意味が理解できるようになります。

神の聖 — イザヤ書 6章3節

聖書は神の完全なきよさを強調しています。このきよい神の前に罪人が立ったなら、どうなるでしょうか。たとえば、純白な服を着ているときに泥だらけの子供が駆け寄ってきたとしたら、どんな気持になるでしょう。この気持は、完全にきよい神が罪に対してもつ気持に比べれば、ごく些細なものにすぎません。神は罪人をそのまま受け入れることも、罪を見のがすこともできません。きよい方である神は、罪人に対してどんなことをするでしょうか。

神の正 — 申命記 32章4節

神は完全に正しい方です。この正しい神の前に罪人が立ったなら、どうなるでしょうか。たとえば、裁判官が殺人を犯した人の罪を認めながらも、それを見のがして放免したとしたらどうでしょう。正しい裁判官ならば、どうするべきでしょうか。正しい方である神は、罪人に対してどんなことを

するでしょうか

神の愛 — ヨハネの手紙第一 4章8節

神は完全な愛の方です。神の愛の前に罪人が立ったとしたら、どうなるでしょう。愛の方である神は、どんなことをしようとするでしょうか。

ご自分の特質に従うために、神のきよさは、罪人を拒絶せざるを得ません。神の正しさは、罪人を罰せざるを得ません。しかし、神の愛は、罪人を赦そうとするのです。神の特質からの要求は、互いに相容れないように思われます。神はこの問題を、どのようにして解決したか、聖書から見ていきましょう。

B 神の解決

神の愛について考えてみましょう。人はどのようにして、愛の深さを表すでしょう。愛するもののためにどれほどの犠牲を払うかによっても、愛の深さを測ることができます。神が私たちのためにどんな犠牲を払ったか、次の箇所から見ていきましょう。

ピリピ人への手紙 2章6-8節

1 私たちのためにイエス・キリストはなにを捨てましたか。

ここで見られるように、イエス・キリストは人となるために、“神のあり方”を捨てました。仕える者となるために、仕えられることを捨てました。苦痛に満ちた最も屈辱的な死に方によって、いのちを捨てました。イエス・キリストはどんな理由で、このようなことをしたのでしょうか。次の2つの箇所が、その理由を明らかにしています。

聖
正
愛

神

ペテロの手紙第一 2章24節

2 キリストは十字架の上でなにを“負われました”か。

3 それは、だれの代わりでしたか。

創世記3章21節では、アダムとエバの罪の結果をおおうために無実な動物が殺されました。

その身代わりの犠牲にも表されている神の解決の方法を思い出しましょう。同じようなことが、先に見たイザヤ書53章にも書いてあります。

聖
正
愛

神 罪 人

ヨハネの手紙第一 2章2節

4 この節によると、神はイエスの死によるなだめ（あがない）が、どのくらいの範囲に及ぶことを認めていますか。

イエス・キリストをなだめ（あがない）の供え物と呼んでいることは、神の本質的な性質からくるすべての要求が、この方によって満たされたことを意味しています。ですから、たとえ人がそんなことはとても考えられないとか、信じないというようなことを言ったとしても、神にとってイエスの死は、全人類のすべての罪を贖うのに十分なのです。

イエスの十字架上の死は、神の要求に対して、次のようにこたえとなりました。

- * 私たちを神から引き離していた罪は、十字架で贖われて、消し去られたので、神のきよさの要求は満たされました。
- * 罪がさばかれたので、神の正しさの要求は満たされました。

* 神は今、私たちを赦して、ご自分のもとに迎えることができるので、神の愛は満たされました。

神が十字架でしたことは、神の特質からのすべての要求に応えたのです。さらに、神はこのことを、私たちが救いを得られるために、また、私たちが神のもとへ行かれる道を開くためにして下さったのです。

Ⅲ 神への応答

ローマ人への手紙6章23節の意味を考えながら、一緒に暗誦しましょう。

1 この節によると、死ではなく、永遠のいのちはどのようにして私たちのものになりますか。

2つの点に注意しましょう。

神が与えて下さいます（“賜物”）

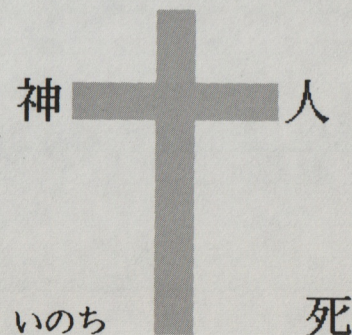
キリスト・イエスをとおして下さるいのちです

（キリスト“にある”）

ここで、キリスト・イエスの前に書いてある“私たちの主”ということばに注意しましょう。

イエスがあなた自身の主であるならば、あなたには永遠のいのちがあるのです。

しかし、神は自由意志をもつ者として私たち人間を造って下さったので、この救いを受け



ることを強制して、私たちの意志を踏みにじろうとはしません。神は救いを賜物として提供し、私たちの応答を待っているのです。

2 a だれかがあなたに贈り物を差し出すときに、どうすれば、それが実際にあなたの物になりますか。 b ヨハネの福音書1章12節によると、神が下さる賜物を自分のものとするために、私たちはどんなことをしなければなりませんか。

3 私たちのすべきことを表していることばと、それらをする場合に意志を使うということ、この2つに気を付けながら、ヨハネの福音書3章16節、3章36節、5章24節を読みましょう。

前ページの図に見られるように、十字架上の死によってイエスは、神への“道”となり、死からいのちへのかけ橋となりました。私たちは自分の罪を悔い改めて、イエスを救い主として受け入れるなら、罪が赦されて、神の子供になり、永遠のいのちが与えられるのです。イエスがヨハネの福音書14章6節で言っているように、イエスを通してでなければ神のもとへ行く道はありません。そうでなければ、自分の罪の罰として永遠の死を受ける以外にないのです。

イエス・キリストを自分の救い主として受け入れたいと思うなら、今でも、あとでひとりであるときにでも、次のように簡単に祈ればよいでしょう。このとおりでなくても同じような意味のことを神に話せばよいのです。

- 1 私は自分に罪のあることがわかりました。どうぞ、赦して下さい。
- 2 イエスが私の代わりに死んで下さったことを信じて、今イエス・キリストを、主として、救い主として受け入れます。
- 3 私の罪を赦して下さい、あなたの子供にして下さってありが

とうございました。

ここで、しばらく神に祈りましょう。今、イエス・キリストを自分の救い主として受け入れたい方は、そのことを神に話しましょう。

終わりにローマ人への手紙10章9、10節を読んで、どんなことをすれば救われると書いてあるか見ましょう。イエス・キリストを心で信じて、そのことを主に告げるなら、そのときから救われたことの感謝ができるのです。また、自分がイエス・キリストを信じたことをだれか他の人に話すならば、いっそう信仰が確かにされるでしょう。